

緑の地球と共に生きる

2026年6月17日(水)14:50-17:20

京都工芸繊維大学センターホール *入場無料 *事前登録不要

[開会の挨拶] 14:50-15:00

堀内淳一 (京都工芸繊維大学 理事・副学長)

[講演1] 15:00-16:00

黒田浩一 (京都工芸繊維大学 分子化学系 教授)

海洋資源×微生物バイオで拓くブルーバイオエコノミー

海に生育する大型藻類は、陸上植物よりも高い能力で二酸化炭素 (CO₂) を吸収することが知られています。本講演では、大型藻類の養殖技術とバイオ技術を組み合わせ、CO₂を固定しながらエネルギーを生み出す新しい資源循環システムの確立に向けた取り組みを紹介します。未利用の藻類資源を燃料へと変換する「バイオものづくり酵母」の開発について解説するとともに、レアメタルを含む海洋資源の可能性にも触れ、海に囲まれた日本が海洋資源を活用して環境とエネルギー問題の解決に貢献する未来像を考えます。

[講演2] 16:10-17:10

岡寄友輔 (京都大学 化学研究所 助教)

琵琶湖の微生物研究の最前線

琵琶湖の水をコップ一杯すくえば、その中には1億を超える細菌と、10億を超えるウイルス粒子が存在します。これらの微生物はミジンコや藻類よりもはるかに小さく、顕微鏡ではその実態を捉えることが困難でしたが、近年のDNA解析技術の進歩により、その生態が急速に解明されつつあります。本講演では、最新のゲノム解析によって明らかになってきた琵琶湖の微生物の多様性や生き様について紹介します。

[閉会の挨拶] 17:10-17:20

小堀哲生 (京都工芸繊維大学 環境科学センター長)